

# すいたみなみしょうがっこう 吹田南小学校だより

令和元年  
(2019年)  
10月発行

平成31年度 全国学力学習状況調査結果報告号

## 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しています。

この調査は小学校の6年生のみを対象とした調査であり、教科も今年度は国語と算数に限られています。そのため、測定されたものは学力の一部であって、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、本調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査のねらいに沿うことであると考えています。



対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図っていきます。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただけたら幸いです。

### 1. 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査について

平成31年度全国学力・学習状況調査は平成31年4月18日に全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に実施されました。教科は国語と算数で昨年実施した理科は3年に一度の実施ですので今年度はありませんでした。また、従来はそれぞれの教科で主に知識を問うA問題と主に活用を問うB問題の二種類が実施されていましたが、今年度からA問題・B問題の区別がなくなり統合されました。

### 2. 教科に関する調査の分析

#### (1) 国語

##### ■ 概要

平均正答率については全国値をやや下回りましたが、大阪府の値に比べると上回る結果となりました。昨年度と調査の



内容が違うので（A問題・B問題の区別がなくなった）単純に比較はできませんが、経年変化を見ると正答率は昨年度に比べてやや下がっています。

##### ■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

#### 【話すこと・聞くこと】

「話すこと・聞くこと」の領域では全国値を下回りました。この領域の問題はインタビューに関するもので「自分の理解が正しいかどうかを確認する質問として適切なものを選ぶ」、「工夫した質問の仕方をしているものを選ぶ」等の問題です。実際にインタビューをした経験がないとなかなかわかりにくい部分もあり、経験の大切さが感じられました。

#### 【書くこと】

この領域の問題は報告文書としての位置づけのなかで資料をどのような目的で用いるのかを答えたり、内容をまとめる文章を字数などの制限を守りながら書いたりするといった問題で、全国値をやや上回りました。重要なポイントを落とさずに、なおかつ条件を守って「簡潔にまとめる」というのは難しい作業です。普段からの練習が必要です。

#### 【読むこと】

「読むこと」の領域は目的に応じて内容を的確に押さえ自分の考えを明確にする、文章を概観して読み取るといった問題で結果は全国値を下回りました。自分の考えを明確にするといった点では「対話的な学び」にさらに取り組んでいき、考えを述べ合ったり、説明をしたりすることを増やしていきたいと思います。

#### 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の問題はひらがなを漢字に直したり接続詞を使って1文を2文に分けたりする問題で、全国値をやや上回りました。語彙は書く機会が少ないと広がりません。読書によってさまざまな文章に触れること、また、文章を書くことが大切です。

##### ■ 国語科における分析結果と課題について

設問1は国語の問題ですが表やグラフの効果的な使い方について問われています。今後、「対話的な学び」を実現していくためにはあらゆるツールを効果的に活用する力が問われてきます。また、同様に文章を書くという場面においても、単に考えを文



字にするということだけではなく、どのような種類の文章なのかを把握し、それに適した書き方をしていくことが求められます。国語科だけではなくあらゆる科目の実践的な場面で、生きたツールとして活用していくことが大切です。



## (2)算数

### ■ 概要

平均正答率については全国値、大阪府の値に比べ、ともに上回る結果となりました。また、国語同様、昨年度との単純に比較はできませんが、経年変化を見ると正答率は昨年度に比べてやや下がりました。

### ■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

#### 【数と計算】

この領域はたし算・ひき算、かけ算を混合した整数と小数の計算問題や、ひき算、わり算で式の成り立つ性質を理解し、それを応用する問題などで構成され、結果は全国値を上回りました。よく理解できていると思いますが、スモールステッププリントや計算マスターなどの効果が表れているものと思われる。



#### 【量と測定】

この問題では台形についての理解を問うたり、図形の構成要素に着目したり、別の図形を構成するといった問題で、全国値を上回りました。図形の問題では「イメージできる」ことが大事で、この問題ならば図形の中から面積の公式を知っている図形を見つけられるかどうか的大事になります。

#### 【数量関係】

棒グラフから資料の特徴を読み取り、判断したり判断の理由を説明したりするといった問題やわり算の意味・理解、伴って変わる二つの量の関係を理解する問題で全国値を上回り、内容についてよく理解できていました。

### ■ 算数科における分析結果と課題について

図形についてはその性質や構成要素に着目して分類すること、また、グラフを扱った問題では数値を読み取るだけでなく、特徴や傾向といった全体をみることができるといことが大切です。計算問題については、能率的に問題を解くために数量関係に着目することなどが求められています。



## 3. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向(児童質問紙調査について)

特徴的なこととして「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問でほぼ全員が肯定的回答をしており、その割合は全国値をやや上回っています。そして「学校に行くのは楽しいですか?」という質問には全国値をやや上回りました。子どもたちの中に正しい倫理観が育ち、充実した学校生活が送れていることがうかがえます。

しかし「自分には良いところがあると思いますか?」という質問では肯定的回答が全国値を下回りました。ただ、「失敗を恐れずにチャレンジしますか?」という質問では肯定的回答が全国値を上回っていることから、もっと自分自身に自信をもってほしいと感じています。

## 4. 今後の取り組み

子どもたちの学力を定点観測するのがこの調査の目的ですが、その「測定すべき学力」そのものに対する考え方が変化してきています。国語であれ算数であれ、「他者に伝えるときにどのように伝えるか」とか「資料をどのように活用するか」というような実践的な場面で知識をどのように活用できるかというところに重点が置かれています。これは来年度から実施される新学習指導要領で「何を知っているか」から「何ができるようになるか」を重視しているからで、計算力や暗記力から実践的な場面で使える知識やスキルに学力の柱が移っていくことを示しています。本校では主体的で対話的な深い学びの実現をめざし、他者とのかかわりの中で学力や探究心を育む方向での授業研究をしています。今後もこの方向で研究、授業改善を行っていきます。

## 5. ご家庭にご協力いただきたいこと

「活用する能力」を育てるために、例えば「最近暑いね。」ということが家庭で話題になったときに「本当に今年だけが暑かったのかな?去年や10年前のことも調べてみたら?」「なぜ、暑くなったか原因を調べてみたら?」とヒントを出していただき「わかったことをグラフにしてみたら?」などと表現の仕方などをアドバイスいただけるとありがたいです。調べた結果は「家庭学習」として提出していただいたら各担任の方で見せていただきます。また、簡単にできることとして学校で習ってきた学習に対し「その物語はどんな内容なの?」とあらすじを説明してもらうことや「学習をしてどう思った?」と聞いてもらうことも子どもの思考力を高めていくことにつながります。

また、家庭生活においては就寝・起床時刻を守るなど規則正しく生活させていただくことや、家族でいろいろなことを話題にして会話をたくさんしていただくこと、地域の行事に参加していろいろな人と触れ合う機会を持っていただくことをしていたらと思います。